

実践報告

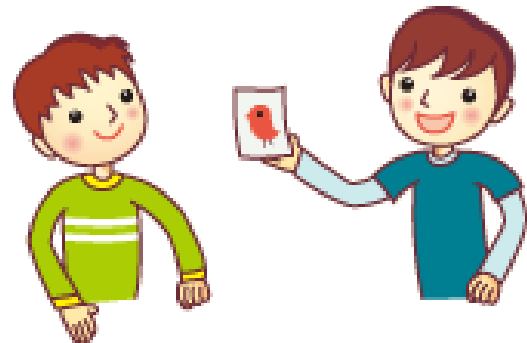
特別支援学校中学部生徒に対する
丁寧な言葉で要求を伝えるための支援

指導目標

【令和2年度後期指導目標】

丁寧な言葉で要求を伝えることができる。

検温する前に「〇〇先生 熱お願いします」と伝えることができる。



プロフィール・方法

【対象生徒】

知的障がい

【指導場面】

検温時（登校後，給食前，下校前）

【般化場面】

検温以外の場面でも丁寧な言葉で要求を伝えることができる
（制服のボタンを留める時，連絡帳の用紙を教員にもらう時）

【教材】

イラストと文字で，丁寧な言葉で要求を伝えることを示したカード（右写真）



手続き

- 月の目標に設定して取り組む。
- 困った時や分からない時は、教師の近くに行き「〇〇先生、教えてください(手伝って下さい)」と言うよう、事前に説明しておく。
- 援助が必要な時に教師の側に行き、丁寧な言葉で要求を伝えることができたなら要求に応じ、称賛する。
- 教師に要求を伝えられない場合(例:席に座ったまま動かなかったり、困っている内容を独り言で言ったりしている)は、教師から「どうすればいいかな？」等の声かけをして正しい行動をするよう促す。

記録の仕方

- 生徒の行動を得点化し記録をとる。
 - 2点：自発的に丁寧な言葉で要求ができた
(声かけなし)
 - 1点：声かけありで、丁寧な言葉で要求ができた
 - 0点：声かけありでもできなかった

達成基準

- 1日3回試行し、3回できた日が8日間連続したら達成とする。

指導 1



指導1 (10月26日～11月30日)

- ① 10月26日にカード(イラストと文字)と言葉で、検温する前に「〇〇先生 熱をお願いします」と丁寧な言葉で教員に伝えることを説明した。カードは10月26日から本人の机上に常に貼るようにした。
- ② 自主的に「〇〇先生 熱をお願いします」と言えたときは称賛した。
- ③ 「はい、お願いしますー」と言ったときは「〇〇先生 熱をお願いします」と伝えて、復唱するよう促した。

指導 2

■ 指導2(12月1日～12月23日)

- ① 指導目標を月目標に設定し、教室の後方にある個別のカレンダーに今月の目標として記入した(写真1)。
- ② 自発的に「〇〇先生 熱お願いします」と言えたときは称賛した。
- ③ 「はい、お願いしますー」と言ったときは「〇〇先生 熱お願いします」と伝えて、復唱するよう促した。



写真1

指導 2

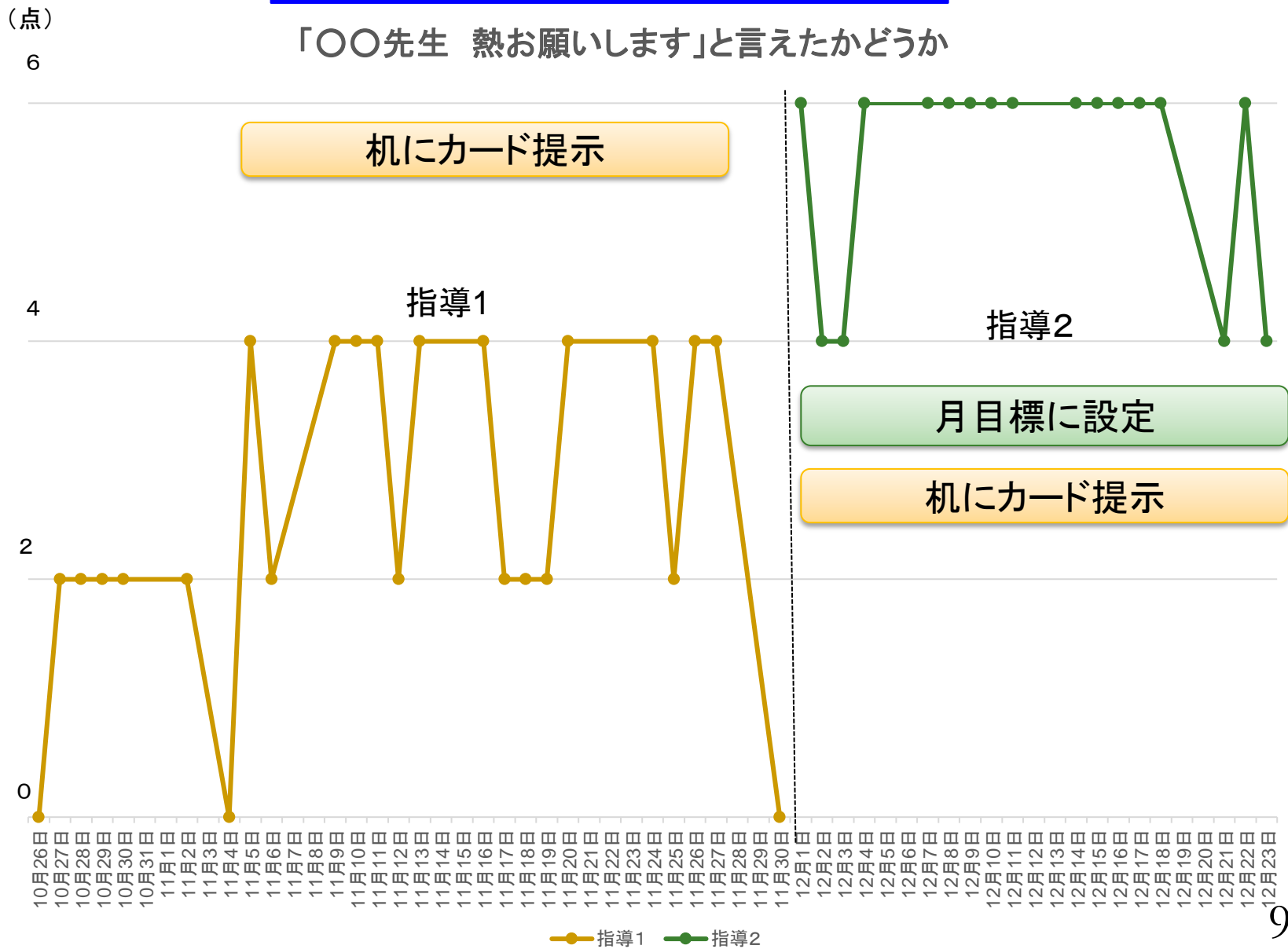
※月目標の設定について

- 毎日帰りの会で振り返りを行う。
- 目標が達成できたらカレンダーに花丸を記入し、拍手で称賛する。
- 毎週月曜日の6時間目に花丸の数を数える。
- 花丸1個 = 10円のレートで、お小遣いとしてお金を受け取る。お小遣いは2週間に1回程度の買い物学習で使用する。



はなまる	<input type="text"/>	個
お小遣い	<input type="text"/>	円

結果(1)



結果(2)

- 指導1では自発的な「○○先生 熱お願いします」という行動が1日1回～2回程度しかなかった。
- 指導1では、登校後はできないことが多かったが、給食前と下校前是可以することが多かった。
- 指導2では、指導開始4日目から、11日間6点が続いた。
- 般化場面（制服のボタンを留める時）では、「ボタンとめれた？」と声かけをすると、「○○先生 ボタンお願いします」と伝えられるようになった。

考 察

- 指導目標を月目標に設定することで、生徒も教師も指導目標を意識することができ、指導目標達成につながった。
- 月目標の毎日の振り返りで花丸をもらったり、好きなものを買えたりすることで、目標達成への意欲の向上や持続につながったと考えられる。
- 日々の生活の中で、本人が「自分だけできないのは嫌」「みんなと一緒にのこをしたい」と訴えることがあり、その思いが強いと思われる。帰りの会で目標を達成できたかどうか、みんなの前で振り返りをしたり、花丸を書いたりすることも、効果があったと考えられる。
- 後期の目標を検討する時期は、困ったことがあっても支援要求することができず、その場で独り言を言うことが多かった。その後、教師の近くに行き、支援要求できることが多くなった。学校生活や人間関係に慣れ、何度も経験を繰り返したことで少しずつ体得していったと考えられる。

今後の課題

- 今後、記録表の色分けや登校時の時刻の記録をsることにより、より詳しくデータを分析してみたい。
- 指導3（1月8日～）を指導1の支援方法に戻して、丁寧な言葉で要求を伝えることができるかどうか確認を行う。
- ・指導3が達成できなければ、「○○先生 熱お願いします」と伝えて復唱するよう促し、復唱できた時は称賛することで、成功体験を増やし、生徒自身が話したい、伝えたいと思える気持ちを引き出せるような指導をしていきたい。